

科学研究費助成事業（基盤研究（S））中間評価

課題番号	18H05291	研究期間	平成30(2018)年度 ～令和4(2022)年度
研究課題名	巨大グラフとビッグデータ解析の 基礎基盤：理論研究と高速アルゴ リズム開発	研究代表者 (所属・職) (令和2年3月現在)	河原林 健一 (国立情報学研究所・プリンシ プル研究系・教授)

【令和2(2020)年度 中間評価結果】

評価		評価基準
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、巨大グラフとビッグデータ解析について基礎基盤構築を進めつつ、アルゴリズム理論の機械学習分野への適用を図るといふ、理論面でも応用面でも重要な課題に取り組んでいる。</p> <p>これまでに、グラフカット、連結問題、向き付きグラフマイナー理論、劣モジュラ関数解析の各分野において、多くの優れた研究成果を上げており高く評価できる。</p> <p>今後は、本研究の目標として掲げている機械学習への貢献として、バンディット問題解析に関する成果以外にも、ある程度直接的な貢献が見える研究成果を期待する。また、研究グループの連携についても、具体的な研究成果として示されることを期待したい。</p>		